

2025.5.14

2024 年度決算案の説明書

常務理事 西山剛司

「前年度決算の承認」は、社員総会の大きな役割です。本来全ての会員が社員であるべきところ、本会は大人数なので代議員制を取っています。ですから、各会員の方が決算について発言する機会が必要です。

ここに、社員総会に提出する決算案の案をお示しします。これは、その説明です。ご覧いただき、ご意見を所属支部の代議員に託していただければと思います。

ご意見は支部総会に寄せていただくか、支部総会が既に終了している支部では支部役員会にお寄せください。(決算案のご提示が遅くなったことをお詫びいたします)

収支計算書について

表の見方として、科目名が一字下がっている行は、その前の下がっていない行の内数です。

収入の部

(1) 経常収益の部をご覧ください。

収入全体としては 2023 年度に比べて 780 万円ほど増えていますが、予算と比べると 50 万円あまり到達しませんでした。

少し細かく見ると

2023 年度決算との比較では、会費、資格更新研修会、全国大会、テーマ研究会、支部研修会において、収入は増えています。

予算との対比で見ると、会費、テーマ別研究会では予算を達成しましたが、全国研修会、全国大会、支部研修会では、予算を達成できませんでした。特に、全国研修会参加費が予算に比べて 180 万円近く少なかったのは、全体の収支に影響を与えています。より多くの方の参加が求められますし、「参加したい魅力的な研修会」実施のためにご意見を寄せていただくことも大切になってくると思われます。

支出の部

(2) 経常費用の部をご覧ください。

事業費については、全体で 180 万円の赤字で、2023 年度に比べると 670 万円ほど支出が増えています。

管理費については、予算に比べて 510 万円あまり赤字となっており、2023 年度と比べると 400 万円あまり増えています。

少し細かく見ると

事業費について

事業費とは、士会の事業を行うために必要な経費です。

全国研修会運営費が 375 万円、全国大会運営費が 140 万円の赤字です。また、支部活動費も 12 万円ほどの赤字になりました。

全国研修会運営費というのは、講師料、会場費、会議費等スタッフの経費、オンラインの経費の他、開催案内のウェブサイトへの掲載費、参加申し込み手続きの経費、参加費徴収の経費、クレジット等の手数料、機構へのポイント申請に関する経費等が含まれています。

支部活動費には、各支部での支出に加えて、支部の研修会関連の委託費(開催案内のウェブサイトへの掲載費、参加申し込み手続きの経費、参加費徴収の経費、クレジット等の手数料、機構へのポイント申請に関する経費等)680 万が含まれています。

この、「オンラインの経費」以降の項目は、旧士会の時には「事務局費」の中にどんぶり勘定で含まれていましたから、明確には見えませんでした。可視化すると、これくらいかかっているということです。

災害関係費も 2 万円ですが赤字になっています。能登地方への調査等の費用です。

管理費は、士会という組織を運営するために必要な経費です。

社員総会費が 7 万円の赤字、執行部会が 20 万円の赤字です。

執行部会会議費、理事会会議費、委員会会議費、支部会費の中に、それぞれ役員への費用弁償金(日当)が含まれています。そのために支出が膨らんでいます。

広報は、2023 年度ポスター等を作成して関係各所に送ったのですが、2024 年度はその活動が出来なかったために減額になっています。

執行部行動費は、官公庁への訪問などの渉外活動を行ったためです。

事務所関係費は 2023 年 2024 年度 2 年度分の貸倉庫の経費が一括して支出されました。2023 年度分の貸倉庫代を立て替えていた者が請求を忘れていたためです。

委託費は、節約をしようとして予算を減額したにもかかわらず、結果として 530 万の赤字になりました。このうち 480 万が全国大会関連の支出でした。全国大会関連支出は、本来全国大会会計の中で処理すべきものですが、大会が久しぶりに対面中心（対面とオンラインの併用）の大会になったことに十分対応できなかったことにより支出が膨らみ、そのうち会員管理に関係する部門を一部管理費に計上しました。適切な処理とは言えないので、25 年度は大会会計内で収まるように予算化しています。

全体として、支出が膨らんだことは、士会全体の諸業務の拡大についてかかる経費の見通しが甘かったことが原因としてあげられます。

2024 年度単年度の収入が 64,017,918 円、支出が 69,734,767 円となり、経常収支は 5,716,849 円の赤字です。

経常外収支として受け取り寄付金が 315,000 円有りましたので、士会の会計全体としては 5,465,949 円の赤字決算となりました。

全体として、2023 年度より積極的に活動を展開したのですが、かかった経費に対して十分結果としての収入が出るに至っていないというのが現状です。

貸借対照表 3 月 31 日現在での士会の資産・負債の状況を表したものです。

資産の部は、3 月 31 日現在で士会が持っている財産です。

現金は 830 万円ほど有ります。あと、受け取れるがまだ受け取っていないお金(未収金)が 2,500 万円、これは研修会参加費等がまだ集金機関(クレジット会社や国際文献の研修会ヘルプデスク等)にあり士会会計に入金されていないものです。まだ支払わなくても良いのだが既に仮に支払っている(前払い金)(将来、支払うべき時に支払う必要が無いもの)が 54 万円ほどです。

そのほかに、固定資産(今すぐ使わないが持っている積立預金)として 6,175 万円有ります。また備品として 34 万円。合計 9,600 万ほどの財産を持っています。

負債の部です。

支払先に支払うべきものだがまだ支払っていないという「借金」(未払い金)が 1,620 万円あります。主として委託費と、役員への「費用弁償金」です。また、前受金として受け取った会費が 2,940 万円、預かり金が 18 万円あまり、あります。これらは、

この時点では士会の権利ではないものですので「負債」借金扱いとなります。それが4,580万ほどです。

正味財産です。

資産の部から負債の部を引いた50,156,714円が、士会が本当に持っている純粋な財産です。2023年度に比べて5,465,949円減ってしまいました。

ここで、資産の部の未収金や負債の部の未払い金が増えるのは、活発に経済活動をしている表れですから問題はないのですが、前受会費が、2023年度の3,220万円に比べて2024年度2,940万円に減っていることは心配です。本会は、会員の会費で運営されていますから、会員の方が所定の期間に会費を納入されないと言うことは、諸事情のある方を差し引いても、会活動への無関心、あるいは退会の兆しが増えていくとも見られます。会費の納入を高めていただきたいと思います。

関わって言うと、会費収入が中心の本会の会計の支出は、会の運営として会員のために使われなければなりません。会員の利益にならないこと、会以外の利益に奉仕するような支出は、会の会計支出としては不適切だと言えます。一方、会の活動のために会員(特に役員)に自腹を切ることを強要することは適切ではありません。そういう観点で、会員の皆様のご意見を伺えれば幸いです。

ご意見は、出来れば文書にして支部総会にご提出ください。

支部では、まとめて本部事務局にお送りください。その際、支部総会の決議を経て「支部の総意」と言える部分と、個々の会員の意見と言える部分を分けていただければ幸いです。既に支部総会が終了している支部では、支部役員会でとりまとめていただければ幸いです。お手数ですが、よろしくお願いします。

代議員の方は、社員総会において、支部からの意見として発言いただければと思います。

とりまとめられた全てのご意見は、本部事務局に6月10日頃をめどに文書で提出いただければと思います。代議員の方はそれをもとにして発言していただければと思います。